

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念はこのホームが独自に作りあげたものであるが、2004年の開設時に決めたものをそのまま踏襲している。その中には「安心した地域での生活を送って頂ける環境づくり」があるものの、より意識的な地域社会との融合(密着)の思想と地域社会への開放を取り入れた新しい理念への変更が望まれる。	○	新しい理念の作成に当たっては、職員の意見をできる限り取り入れるように、すべての職員との話し合いの場を持つことが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設当時の理念を毎朝職員が唱和している。今では入居者も加わり、最後に入居者と職員が「よろしく願います」と締め括っている。理念は入居者の諸活動、近在の方々との交流などに活かされ、相互の信頼感を高めている。近在の方の不幸を知った入居者が、その方の家に焼香に出向いている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	このホームは、町内会に参加している。さらに老人クラブへの参加や岩切中学校との連携も進めている。入居者は地域の祭や盆踊りに参加し、地域の方々もホームの芋煮会などに参加している。ボランティアとして手品、踊り、歌などの訪問がある。去年は町内会の回覧板でホームの広報紙を2回、回覧した。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の実施にあたり、その評価の意義とねらいについて、すべての職員で話し合い、自己評価に取り組んでいる。サービス評価で見いだされた課題についての改善計画を立て、その実現に取り組んでいる(3月には「入居者同志の支え合いの支援」、4月と5月は「自立できる人の役割分担の声掛け」)。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、事業者からの事業報告と、参加者から質問意見、要望の聴取により、双方向的に運営している。評価機関からの評価結果を会議で報告し、改善対策についても報告している。会議で出された意見により、非常口への傾斜路の設置、喫煙場所の防火対策、入居者の老人クラブへの加入などに取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政側に対して、ホーム側から事業への理解と支援を要請しているものの、行政側からの反応が鈍い。行政側からの事業の受け入れは無い。「今後はホームの行事への参加も呼び掛けていく」としている。	○	グループホームから行政側へのより積極的な働き掛けが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が訪問したときには声を掛け、必ず入居者の状況を伝えるとともに、入居者のことについて話し合っている。すべての家族に毎月1回は手紙や電話で入居者の状況を伝え、ホームの広報紙「いきいき岩切」を送付している。入居者の金銭管理については、家族と取り決め、毎月1回は書面で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や不満、苦情を手紙や来訪時に聴取し、その解決を通じてサービスの質の向上に活かしている。苦情相談の受付先として、ホームの担当者と解決責任者の氏名、行政機関、第三者委員などの重要事項説明書に記載し、ホーム内にも掲示して、意見や苦情を伝えることができることを繰り返して説明している。	○	入居者とその家族、地域社会の方々及び職員が一体となってホームを運営するためにも、家族会の結成が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と職員のなじみの関係を重視し、異動を最小限に抑えている(開設後の常勤職員の交代は4人)。新任職員には先任職員が付き添いながら入居者との信頼関係を築いている。人的資源である職員を大切に、休暇取得の尊重、行動意欲の高揚、ストレスの解消、研修の奨励と処遇改善などに取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には日常的に学ぶことを奨励している。すべての職員が研修会などに参加できる機会を設け、研修内容を報告する機会を作っている。昨年は自主研修を3回実施した。開設後の介護福祉士の資格取得者は6人で、職員が資格を取得した時には資格手当の加算があり、人事評価制度を導入している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	すべての職員が同業者と交流する機会があり、日々のサービスや職員の育成に役立つ実践的な交流や連携が図られている。同業者の組織であるグループホーム協議会に加入しているので、各種資料の送付があり、情報の交流や、年に4回の研修によって、職員の介護技術が向上している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になじみながら、本格的な入居に移っていきけるように調整している。	入居予定者には入居前に、職員が必ず現地調査に赴いて面接している。入居予定者とその家族にはホームを見学してもらったり、昼食時には入居者と交流しながら、家族共々食事を一緒に楽しんでもらったりして、本人が職員やサービスになじみながら、本格的な入居に移っていきけるように調整している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の得意な分野(調理、清掃、園芸農作業、囲碁など)で力を発揮してもらい、職員はそれに感謝している。職員が入居者から、生活の技や生活文化の大きさを教えてもらう場面がある。特に海外(台湾、中国、ロシアなど)での生活が長かった入居者からは、海外での生活の状況を学ぶところが多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な触れ合いのなかから、入居者の一人一人の思いや暮らし方、希望や意向を把握するように努めている。本人の「いま」や「これまでのこと」をよく知っている家族などを交え、本人の視点にたって話し合っている。得られた情報は会議などで報告して、職員間で共有化している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の係わりのなかから本人やその家族の思いや意見を聞き、ホーム以外の関係者(特に医師)の意見も聞いて、すべての職員が話し合い、必要な支援を盛り込んだ具体的な介護計画を作成している。今後は「本人とその家族、医師などの関係者及び職員による合同のカンファレンスを開催したい」としている。	○	入居者とその家族、医師などの関係者及び職員による合同のカンファレンスの開催と、その成果を大いに期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の急変時には、必要に応じて介護計画を見直している。最低3か月に1回の見直しに遅れがあったが、現在は回復した。また、介護計画の遂行状況、効果などを評価し、評価に基づいた計画を作成している。作成した介護計画を家族に渡し、署名押印により同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や特別な外出、外泊などで、支援が必要な場合には柔軟に対応し、それぞれが満足を得られるように支援している。「近在の高齢者が必要に応じて、ショートステイやデイサービスを利用できる新たなホーム事業を展開していないので、今後は状況に応じて検討していく」としている。	○	ショートステイやデイサービスの事業を取り入れ、より地域社会に根ざして(密着して)ホームが運営されるように期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	このホームは入居者のかかりつけの医師や医療機関と良好な関係を築き、本人やその家族が希望する医師や医療機関に、受診できるように支援している。また、入居者の通院の介助方法、情報の伝達方法について家族と話し合い、合意を図っている。このホームは「医療連携体制加算」を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重度化した場合の対応を、入居時から関係者で話し合い、意思を確認している。介護計画を提示する際にも、その都度繰り返して話し合っている。「今後はその結果を書面に残したい」としている。終末期の医療措置に係る関係者の方針や支援の内容を確立している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入居者への言葉掛けや態度やかかわり方がゆったりとしており、声の調子がやわらかである。職員は入居者を尊重して呼び掛け、本人の承諾を得たうえで居室に入出入りしている。個人情報の保護に係る取決めがあり、すべての職員が理解している。スピーチロック(口頭による禁止や命令)は見られない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活の周期に配慮して、日常の活動、起床、入浴、食事、就寝の時間を、本人なりの速さで行えるように、柔軟に対処している。職員は一人一人の入居者の「その日にしたいこと」を把握し、入居者が主人公となって暮らせるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、食事の後片付けなどを、入居者の力を活かしながら、職員も一緒に行っている。食事には旬の食材や新鮮なものを取り入れ、入居者の好きなものや嫌いなものを考慮した食事や代替食を提供している。入居者と職員が同じ食卓で同じ食事を食べ、職員はさり気なく支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者のこれまでの生活習慣や好み、希望を聞いて、その人に合った入浴が毎日できるように支援している。浴室は毎日利用でき、毎日のように入浴している人がいるし、気の合った入居者同士が二人で入浴し、お互いが支え合うことによって、不穏状態が解消されている例もある。同性による介助に留意している。	○	夜間の入浴を希望する人がいるようなので、入浴者の安全に配慮しながら、夜間でも入浴できるように検討されたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員はそれぞれの入居者の習慣、志向や能力を踏まえて、本人の役割や楽しみごとへ参加できるように支援している。具体例としては、畑などへの肥料や石灰の散布、料理の味付け、新聞の取り入れ、電気掃除機のコードの移動などが上げられる。「ユニットあおばではその取り組みをさらに強化したい」としている。	○	ユニットあおばの取組を期待する。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は入居者がなじみの店や場所に出掛けられるように支援している。入居者が歩行困難な場合には、車や車いすなどを利用して、戸外へ出ることを積極的に働き掛け、それを支援している。野外行事としては、あやめ祭、芋煮会、盆踊り、夏祭などを行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室にかぎを掛けていない。防犯対策として玄関にかぎを掛けているが、入居者が外出するときには直ちに解錠している。職員はそれぞれの入居者の外出の癖や傾向をつかんでおり、見守りや付添いで対応している。近在の方々にも協力を求め、見守りや声掛け、事務所への連絡を要請している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策に係るマニュアルを作成し、すべての職員に周知している。また、地域の方々の参加と協力を得て、毎年2回以上の避難訓練を実施しているし(夜間を想定した避難訓練を含む)、毎月1回は自主訓練をしている。職員は地域社会の防災訓練にも参加している。職員の非常呼集体制を確立していない。	○	是非とも職員の非常呼集体制を確立して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの入居者の食事と水分の摂取量を記録している。入居者の嗜好を把握して、職員である栄養士が栄養バランスにも配慮して献立を作成している。入居者の体重は、入浴のたびに計測している。「代替食の栄養価を分析していないので、今後は管理栄養士に相談したい」としている。	○	代替食の栄養価の分析の取組には共感できるので、その実現が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や日差しの調節、換気、テレビの音量、職員の会話の音量は適切である。それぞれの居室や共用空間の温度と湿度を適切に管理している(加湿器の配慮あり)。見やすい大きさの時計と暦を見やすい場所に掛けている。入居者にとって使いやすく造作し、なじみのものや使いやすいものを置いている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのものを持ってきてもらえるように家族に働き掛けている。それぞれの入居者が、自分に適した居心地のよい居室(11.6㎡)を作っている。		